



国際協同組合年を迎えて

埼玉県生活協同組合連合会

会長理事 伊藤 恭一

会員生協の皆様、議会、行政、友誼団体の皆様、埼玉県民の皆様には、日頃ご指導ご鞭撻を賜り、心からの御礼と新春の御挨拶を申し上げます。

昨年発生した東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故は、多くの尊い人命を奪ったばかりでなく、住みなれた故郷を追われることとなった多数の避難者をうみだす未曾有の大災害となりました。犠牲者の皆様に衷心より哀悼の意を捧げ、あわせて被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

被災地の復興や被災者の生活再建には、息の長い支援が必要となります。埼玉の生協は、全国の生協と力を合わせて、引き続き被災地と被災者の皆様への支援活動を継続していく所存です。

さて、今年は、国際連合が定めた国際協同組合年（IYC）に当たります。国際年とは、国際社会が一年を通じて共通の問題に取り組み、全ての国連加盟国は、そのための行動計画の作成を求められるなど高い位置づけがされています。

「国際協同組合年の国連総会宣言」は、「協同組合は、経済社会開発の主たる要素となりつつあり、貧困の根絶に寄与するものであることを認識し」と協同組合の役割を評価したうえで、各国政府に「協同組合の社会経済開発に対する貢献に関する認知度を高めること、そして、協同組合の発展を支援すること」を要請しています。「協同組合が、よりよい社会を築きます」のスローガンも国連によって決められました。

私たちは、この国際協同組合年を大歓迎するものです。むしろ、身の引き締まる思いです。協同組合が国際社会からの期待に応えられるかどうかが問われていると考えるからです。

国際協同組合年、2012年、埼玉の生協の役職員・組合員が率先して協同組合の理念や価値、社会的役割の発揮について学び合いを広げてまいります。その上で、協同組合の社会的認知度を高める事業を進めてまいります。国連は持続可能な社会、共生社会をめざしています。「一人は万人のために、万人は一人のために」に象徴される「分かち合い」「助け合い」の協同組合の理念が広く普及されることが期待されている所以と推察しています。

埼玉県生活協同組合連合会は、今年、設立40周年を迎えます。偏に皆様のご御指導、ご協力の賜物と感謝しております。埼玉の生協は、持続可能な社会、共生社会をめざし、これからも最大限の力を発揮して協同組合運動を推進してまいります。

皆様の今後の益々のご健勝とご活躍を祈念し、併せて、私どもへの引き続きのご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。新年のあいさつとさせていただきます。